

事業報告概要書（公表版）

1 基本情報					
施設名又はグループ名		指定管理者名及び団体概要			
文化財庭園グループ		（指定管理者名）公益財団法人 東京都公園協会			
		（団体の概要）都市緑化の推進、公園や水辺を通じた安らぎとゆとりの提供を目的として設立され、公益目的事業（指定管理者事業を含む）及び収益事業を行う。			
指定期間					
H28.4.1 ～ R8.3.31（10年間）					
2 施設名		3 収支(単位:千円)			
浜離宮恩賜庭園、旧芝離宮恩賜庭園、小石川後楽園、六義園、旧岩崎邸庭園、向島百花園、清澄庭園、旧古河庭園、殿ヶ谷戸庭園			令和7年度	令和6年度	令和5年度
	項目	金額	金額	金額	公園別支出額
	収入 計	1,313,427	1,209,289	1,114,393	浜離宮恩賜庭園:269,119、向島百花園:85,601 旧芝離宮恩賜庭園:116,797、清澄庭園:154,642 小石川後楽園:166,853、旧古河庭園:121,359 六義園:187,566、殿ヶ谷戸庭園:84,660 旧岩崎邸庭園:126,315
	指定管理料	802,489	728,488	684,820	
	利用料金	510,938	480,801	429,573	
	その他収入	0	0	0	
	支出 計	1,312,912	1,213,218	1,115,213	
収支差	515	△3,929	△820		
4 管理運営の概要					
＜基本理念＞ 首都東京を代表する文化財庭園の価値を高め、未来に継承するとともに、庭園文化の魅力を世界に発信します					
○庭園の価値を高める <ul style="list-style-type: none">各庭園の価値の向上を図るため、作庭意図や歴史背景を踏まえた質の高い維持管理を実施した。維持管理技術・技能を継承するためのノウハウの蓄積と次世代を担う人材を育成した。					
○庭園の魅力を向上する <ul style="list-style-type: none">イベント参加のオンラインチケット化を拡大し、利便性の向上へと繋げた。地域・企業等と連携した取組みを拡大実施し、周辺地域と一体となった魅力アップで、利用者サービス向上を推進した。					
○庭園文化を世界に発信する <ul style="list-style-type: none">庭園Instagram等のSNS、Newsプラットフォームで積極的に情報を提供し、国内外に広く普及や、魅力発信を行った。文化的観光拠点としての役割を担うとともに、台湾での旅行博出展を行いインバウンド利用者を迎えた。					
5 管理状況					
①維持管理					
【作庭意図や歴史的背景を踏まえた質の高い維持管理】					
・浜離宮では東京都によるお伝い橋及び藤棚修復工事と連携した作業や工事を計画。中島の御茶屋周辺の竹垣一式を更新し、新しくなった橋から連続する整った景色に改善した。また、お伝い橋の閉鎖で迂回ルートとなった園路の不陸や三間橋の高欄のぐらつき等を解消させ、安全な歩行ルートを確認することができた。					
・小石川では古絵図に残る「蓬萊島」を参考に、島内の高木剪定を実施。往時の姿に近づけることができた。一方で衰退が進む島内林地に幼木を補植し、蓬萊島の景色を次世代へつなぐ準備も整えた。					
・百花園では古典菊の効果的な増殖・栽培方法を確立させ、品種や鉢数の確保に加え、古典書籍に残る大作りを仕立てるなど、イベントでの展示植物の見せ方を広げて、江戸園芸の奥深さを提供することができた。					
・旧古河では、洋館東側から南側に広がるバラ園花壇周囲の芝生地の切り下げを実施。花壇の平面性を回復させ、作庭当時の写真に残る往時の景観に近づけることができた。					
【維持管理技術・技能を継承するためのノウハウの蓄積と次世代を担う人材育成】					
・庭園維持管理に関する検討会（12回）を開催。保存活用計画を主軸とした当年度の維持管理業務の計画や改善案を検討。実際の工事の立ち会いや施工後の改善状況を見学して意見交換を行うなど、技術職員の庭園維持管理技術の向上を図った。					
・庭園技能の継承と底上げを図るため、庭園技能連絡会（4回）を通して、技能向上について検討。また、中堅・若手職員に技能経験の蓄積と技術向上を図るため、旧芝離宮及び旧古河における2回の霜除け設置研修や、六義園における建仁寺垣更新作業研修を実施。本年度は特に次世代を担う人材育成に重点を置き、若手職員の講師や講師補助への登用と、学んだ技術のアーカイブ化を行い、技能の継承を進めた。					
②利用者への対応					
【庭園の魅力向上】					
・浜離宮、旧芝離宮、小石川、六義園では夜間特別開園コンテンツをそれぞれエリアの拡充やコンテンツ演出をバージョンアップさせ開催、これまでのゆかりのある地域と共に行事開催することができた。					
・自主事業の還元事業として六義園では「六月六日は六義園の日！？」、旧岩崎ではスマートフォンを使った「ミステリーツアー」、殿ヶ谷戸では「芝庭コンサート」等を開催、更なる魅力向上を図った。					
・旧芝離宮ではゆかりの地である小田原との連携を強化し小田原城でパネル展を実施、昨年度の開園100周年のレガシーを引き継いだ。					
【庭園文化の発信】					
・9月に台湾出身インフルエンサーを起用し、百花園、殿ヶ谷戸の紹介動画を作成、11月台湾で開催の旅行博に出展し、アジア人観光客のニーズの把握や今後の広報展開へと活用することができた。					
・旧古河では国指定名勝20周年を機に維持管理の歴史等をパネル展示で紹介、期間中東京都の洋館外壁工事をテーマとした講演会も実施した。					
・庭園ガイドサービスを旧芝・小石川・清澄・旧古河で新たに作成しセルフガイド機能を有したデジタルマップガイドサービスを11言語で展開した。					
6 利用者アンケート結果					
実施方法：庭園内で調査票を配布・回収／QRコード掲示によるWEBアンケート					
施設名	総合満足度	植栽管理	施設の清潔さ	安全・安心	職員の対応
浜離宮恩賜庭園	4.9	4.8	4.7	4.8	4.7
旧芝離宮恩賜庭園	4.8	4.9	4.7	4.9	4.9
小石川後楽園	4.6	4.7	4.1	4.6	4.5
六義園	4.8	4.9	4.6	4.8	4.9
旧岩崎邸庭園	4.9	4.9	4.9	4.9	4.9
向島百花園	4.8	4.7	4.7	4.9	4.8
清澄庭園	4.9	4.8	4.4	4.8	4.7
旧古河庭園	4.5	4.7	4.3	4.6	4.6
殿ヶ谷戸庭園	4.7	4.8	4.5	4.6	4.6
7 入園者数の状況（単位：人）					
施設名	当該年度	分析			
浜離宮恩賜庭園	702,957	Googleサイトの情報発信充実や秋のイベントの質の向上を目指した結果、集計以来過去最高の外国人入園者数を更新した。			
旧芝離宮恩賜庭園	155,276	浜離宮との園結びチケットの販促や竹芝周遊スタンプラリーを開催し、安定した誘客を図ることができた。			
小石川後楽園	419,380	一年を通したタイムリーな広報や誘客を図り、過去最高の入園者数となった。（昨年度比109%）			
六義園	520,143	昨年3月にしだれ桜が散ったことで4月の入園者数減げ響いたが、新たな6月のイベント実施等で昨年度同程度の入園者数となった。			
旧岩崎邸庭園	153,603	東京建築祭への初参加や閑散期での非公開エリアの特別公開等で誘客を図り、昨年度比103.4%の入園者数となった。			
向島百花園	94,500	海外インフルエンサーの起用や広報活動により、集計以来過去最高の外国人入園者数（昨年度比137.9%）となった。			
清澄庭園	268,665	酷暑でもイベント期間中のひと涼み処開設など暑さ対策を実施したり、定期的な集会施設をお休み処として開放し入園者数の底上げを図った。			
旧古河庭園	252,921	バラの見ごろが長く続くよう剪定日を調整した結果、秋バラ～紅葉の2ヵ月に及ぶイベント中の来園者数は昨年度比116%となった。			
殿ヶ谷戸庭園	76,910	芝庭コンサートを軸とした紅葉期のPRチラシを近隣や観光拠点へ配架することで来園者の増加につながった。			
合 計	2,644,355				



特別名勝・特別史跡

浜離宮恩賜庭園

将軍の御庭を守り、活かす
次世代に繋ぐための「今」の取組



所在地：中央区／開園面積：25.02ha

東京都工事への協力と補完により、利用者サービスの維持・「潮入の池」景観向上

NEW お伝い橋工事中の迂回ルートの安全を確保

代替ルートの「三間橋」を工事前に点検。高欄のぐらつきを解消し、周辺園路の不陸を解消。安全な観賞路を提供できた。



橋は腐朽した木部を交換、園路は段差を解消

NEW 「浜離宮でお月見散歩」の新たなアプローチ

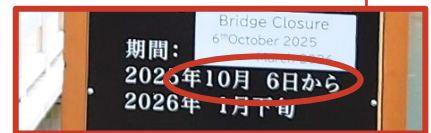
八景山方面ルートには新たな見どころを設置し満足度をアップ。「今年限り」と謳い特別感を演出して渡橋不可をフォローした。



代替となるビューポイントや追加演出の設置

Update 生活文化局主催「東京大茶会」への対応

関係各所に対して主体的に調整の場を設け、利用者の安全と利便を極力確保。通行止めや工事への苦情をゼロに抑えた。



施工期間等が極力重ならないよう働きかけ

NEW 工事期間を活用し、「中島の御茶屋」を引き立てる垣根を更新。中島に渡る園路も快適に改善

「お伝い橋」工事期間中に、中島の御茶屋周辺の垣根2種を直営で更新し、橋の完成時に合わせて開放、「潮入の池」全体の景観向上に寄与した。



「中島橋」へ至る園路は、土系舗装による補修で歩きやすく改善できた。





江戸時代に思いを馳せる、濱御殿の「尚武」と「宴遊」の体験

NEW 都立庭園初!!! 老若男女が馬と触れ合う

都立庭園としては初めて、生きた馬を招き、和式の馬具装着デモンストレーションや写真撮影を実施。徳川吉宗の時代に思いを馳せる**貴重な体験に好評をいただいた**。



安全に配慮しながらふれあいの時間を創出



子ども向けの流鏝馬体験も人気

NEW 本物の芸能を味わう 「小夜の調べ」

お月見イベント中、**毎夜、屋外公演を開催**。人間国宝による「尺八」演奏をはじめ質の高い伝統芸能を披露し、**延べ約2,500人の観客**が本物の伝統文化を愉しんだ。



もっとも人気の高かった「能楽」の舞台と観客



「里神楽」ではイベントに合わせウサギが登場

NEW 将軍の「舟遊び」を追体験！

かつて舟遊びを愉しんだ**将軍の目線で池廻りを周遊する動画**を制作。また、海からの舟旅も地域連携によって航路・期間とも拡大開催し、多くの方に体験いただいた。



あたかも船上から眺めるかのような映像



竹芝と浜離宮を往復するEV船のショートトリップ

江戸時代の遺構を複数年かけて計画的に整備－往時の景観への回復－

NEW 御庭口御門跡の「土塁」の維持管理による遺構の保全

「保存活用計画」において「**土塁**」は**作庭意図の重要な基盤かつ景観の構成要素**として維持が求められている。一昨年より下草や実生木の整理等を継続的に実施、今年度、3か年の計画が完了。**江戸時代の遺構である土塁を保全した**。



実生木を整理して土塁を保全

Update 「庚申堂鴨場」景観の保全

平成29年度から取り組んできた小観・引堀の補修。今年度**最後の1箇所**で**実施**し、周囲の樹林地も整え、計画的に**庚申堂鴨場の景観を保全した**。





名勝

旧芝離宮恩賜庭園

地域・次世代と躍進する庭 旧芝離宮恩賜庭園



所在地：港区／開園面積：4.31ha

ゆかりの地である小田原との連携、及び地域との連携・協働

NEW 小田原城でのパネル展示

初めて小田原城天守閣において当園の歴史や見どころを伝える出張パネル展を9月～11月に実施。魅力発信と小田原からの来園誘致に資した(観覧者数約16万6千人)。当園でも小田原城のパネルを展示し、相互協力の発展・強化ができた。



小田原城主の創った庭として3カ月以上展示

NEW 小田原囃子の招致

11月の「秋の旧芝離宮～伝統芸能に親しもう～」に江戸太神楽・江戸独楽のほか、初めて小田原市の協力で無形民俗文化財「小田原囃子」の公演を招致、小田原商工会議所の協力で伝統工芸品も販売し当園の歴史と伝統の普及啓発を行った。



小田原との繋がりを紹介し小田原囃子を実演

NEW 歴史と魅力のアーカイブ

開園100周年パネルをもとにした冊子「旧芝離宮350年物語」を作成。ガイド协会会员に配布の他、小田原城等の関連施設、近隣の郷土資料館等の公共施設、観光施設などに配架依頼を行い、当園のより深い知識にアクセスしやすいように図った。



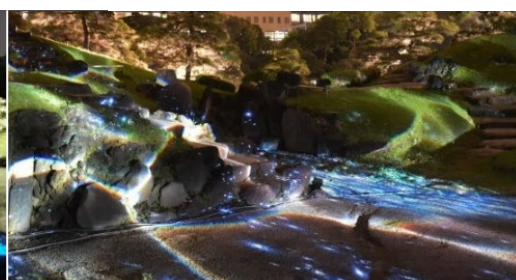
古地図などの資料画像も豊富に掲載

Update 歴史・見どころに着目したライトアップの実施

地域の3エリアマネジメントと連携し「旧芝離宮夜会～ひかりめぐる庭～」を5月に開催。開園区域を馬場跡エリアまで拡大。大泉水で潮の満ち引きをイメージしたショー、雪見灯籠での満潮時の光景の再現、枯滝のプロジェクションマッピングなどの光による演出で、潮入りの池の歴史や主要景観の作庭意図を伝えた。早期に内覧会を周知し、多くのメディアで当園を紹介できた。初めて飲食スペースを二箇所に分け混雑を緩和しつつ、夜会限定の料理で味覚でも楽しんでいただいた。アンケートではショーなどが好評を得て、満足度を向上した。



蛍光石で潮入りの池の再現をした景色



枯滝に水が流れるプロジェクションマッピング

Update 広がる企業との協働作業

旧芝離宮夜会に合わせ共催者と協働し、見どころの除草を実施。環境向上と理解促進・関係者内の団結を図れた。また落葉清掃、花苗植付、こも巻き外し等を延べ14社と7回行い、地域企業との継続的な連携強化と良好な庭園環境に繋がった。



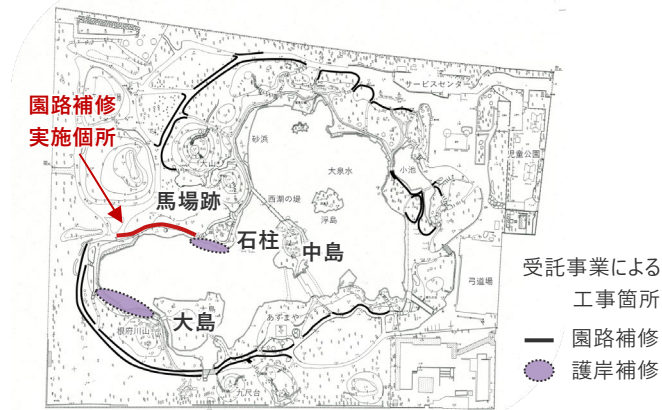
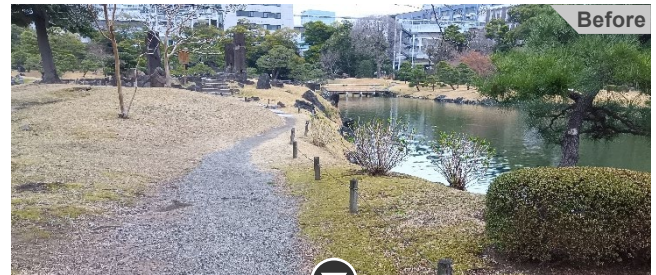
左写真の枯滝を整え演出意図を共有



都の大泉水護岸修復工事周辺の一体的な景観の回復

NEW 庭園の本質的価値である芝地地割の保全

泉水周りの景観の主体となる**芝生地地割の保全**のための園路補修を実施。芝生の侵入繁茂、過度の踏圧、土砂の流亡により、失われることが危惧される庭園の**本質的価値である芝生地地割の保全**を大規模な受託事業に連動してきめ細やかに実施した。



Before

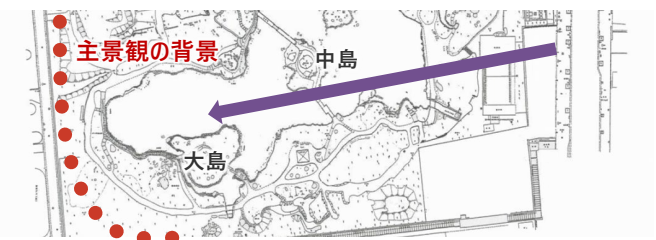


After

地割に沿った園路の復元

NEW 背景を構成する外周部の樹林の保全

大泉水の背景を構成する外周樹林について、**学識経験者からの提言**を受け、これまでの**遮蔽機能のみの役割を**発展させ、「**景観樹**」としての**レベルの手入れを実施**。古木大径木を自然樹形を基調とした骨格剪定により樹姿を回復させ、景観の向上を図った。



Before



After



施工風景

次世代育成：庭園に親しむ・学ぶ・管理する、ステップごとの機会を提供

NEW 親子で楽しむ"Enjoy"

剪定枝を使用したコースター作りを実施。使用した園内の木を探してもらい、親子で楽しみながら庭園に親しむ体験を提供した。



絵付け＆塗り絵、樹木探しで庭園を満喫

NEW 親子で学ぶ"Learn"

庭園の歴史や庭師の技を親子で学ぶ講座を**地域連携で初実施**。親子で伝統技術の大切さへの理解を深め合ってもらえた。



親子で延段づくりワークショップにTry!

NEW 親子ボランティア "Act"

親子参加の作業ボランティアを実施。庭園を主体的に守る体験で、社会参加の喜びと庭園維持の意識を高めてもらった。



親子で楽しく清掃、庭園を身近に感じるように



特別史跡・特別名勝

小石川後楽園

最古の大名庭園で
「守る」「引き継ぐ」「活かす」



所在地：文京区／開園面積：7.08ha

蓬萊島の手入れによる修景管理・技能伝承・活用への展開

NEW 保存活用計画に基づく修景管理と将来につなぐ景観の再生

文化財庭園の保存活用計画に基づいた修景管理として、**約5年ぶりに蓬萊島の高木剪定を実施した**。剪定は、明治期の絵図を参考にしながら実施。枝の整理や幹肌の見せ方を工夫、**周囲の視点場からの景観を意識した手入れを実施した**。また、下草や樹木の衰退が進んだ箇所へ**地被類や後継樹を補植、将来に互る景観の再生を図った**。本事業により、視点場から臨む蓬萊島は明治期の絵図の雰囲気や、現在の利用者にも提供することができた。



Update OJTによる高木剪定技能の継承と安全管理の徹底

安全管理の一環で、作業前後にKYミーティングを実施し、想定される危険箇所や作業手順、仕立ての方法について職員間で情報共有を行った。また、**他庭園からの職員参加による協働作業を実施し、熟練職員が若手職員に対して、作業姿勢や剪定位置の判断、高所での道具の扱い方などを実践を通して指導した**。これにより、高木剪定技能の継承と安全管理の徹底を図るとともに、庭園間の連携を深め、人材育成の推進につなげた。



NEW X(旧Twitter)での作業状況の動画を発信

X(旧Twitter)では、**修景作業の様子や普段立ち入ることのできない蓬萊島内部の状況を動画で発信し、再生数は合計で約2万回に達した**。文化財庭園の修景管理の取組を広く紹介する好機となった。



作業の様子や蓬萊島内の様子の2投稿実施

NEW YouTubeによる上陸作業の動画を配信

YouTubeでは、船で蓬萊島へ上陸する様子や、普段見ることのできない島内の状況、外観景観をより詳しく撮影し、**紅葉時期にあわせて整備後の蓬萊島の姿を紹介する映像を制作・配信した**。



蓬萊島修景後の小石川後楽園

NEW NHKBSの新番組へのシナリオ提案と撮影協力

過去に広報動画に起用した庭師タレントが日本庭園を巡るシリーズ番組の第1回に当園が選ばれ、打合せで蓬萊島での作業体験を提案。**蓬萊島や園内が紹介され、庭園の歴史や魅力を効果的に発信した**。



蓬萊島へ向かう作業舟の様子



企業・地域連携により進化し続ける「夜間特別開園 秋の夜長の小石川後樂園2025」

NEW SNSを活用した広報活動の強化で入園者増

新たに実施したSNSキャンペーンや(株)東京ドームと連携した広報で各種メディアに取り上げられ利用者が拡大。前売券販売数は前年の約2.3倍、期間中の**総入園者数は約1.4倍に増加し13,486人となった。**



イベント紹介記事（スポーツ報知）

NEW 季節イベント実績を踏まえた追加コンテンツの導入

昨年のイベントで協力関係にあった(株)ロッテに働きかけ「小梅ちゃんスタンプラリー」を新たに実施。絵柄も新たに作成した。利用者の回遊促進に繋がり園内各エリアを楽しみながら巡る仕組みとして機能した。



スタンプの列に並ぶ参加者と小梅ちゃんスタンプ

Update 快適な環境で「江戸の暮らしや風景」を観賞

回遊性や観賞スペースの確保を意識し、**前年度より広いエリアで観賞可能な「唐門」でプロジェクションマッピングを実施。**利用者の安全確保と快適な観賞環境の向上に寄与した。



唐門に映し出されたプロジェクションマッピング

「小石川後樂園で記念フォト」有料特別撮影プランの販売

NEW 利用者の利便性向上や、庭園の収入源増を目的とした当庭園初の取組

花菖蒲や紅葉の最盛期への撮影規制がもたらす不便さや、通天橋架替工事による主要景観損失の影響を補完する取組として、有料特別撮影プランを初めて実施。開園前1時間を含む時間帯に**普段立ち入れない場所で、他者のいない状態で撮影を可能として好評を博した。**収益金は「石州流茶会」開催に活用し利用者に還元した。

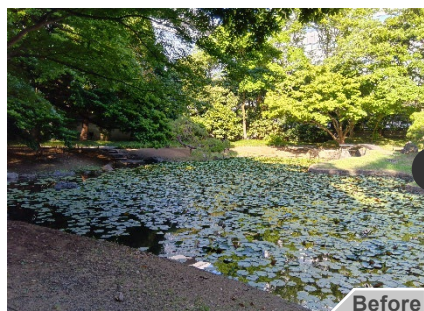


普段は立ち入れない区域での撮影の様子
左：「内庭石橋」（婚礼前撮り）、右「円月橋」（成人式前撮り）

内庭池のスイレンを適切な方法で管理し、本来の池水景観に回復させる

NEW 過繁殖したスイレンを根茎から除去。後処理の工夫で景観ポイントを魅せる

内庭池のスイレンは繁殖力が旺盛で、毎年茎葉を除去してきたが、短期間で再繁茂し水面を隠していた。そこで池全体のスイレンを**根茎から除去し、池水面が見えるように改善した。**特に唐門前は、水底に遮光シートを敷設して再繁殖を防止。ライトアップイベントでは水面に映る唐門の演出が可能となり、好評を博した。



Before



After

NEW 内庭池に相応しいスイレン植栽量の調整により、本来景観が回復

スイレンは、池底に根を張ると、再び過繁殖の恐れがあるが、景観面で適正量は必要である。そこで**有識者の助言を基に適量のスイレンを鉢植えにして、池内に再設置した。**また撤去したスイレンの一部を栽培根拠のある向島百花園に移植して、植栽材料として活用した。適切な管理により内庭池の本来景観に回復させた。



ライトアップされた唐門の水面への映り込み範囲を考慮して作業を施した



特別名勝

六義園

“和歌の庭”六義園の価値を高める維持管理と魅力発信



所在地：文京区／開園面積：8.78ha

工夫を凝らして六義園の魅力を伝える 紅葉期・桜花期の夜間特別観賞

NEW イチョウやサクラを散りばめたフロアプロジェクション

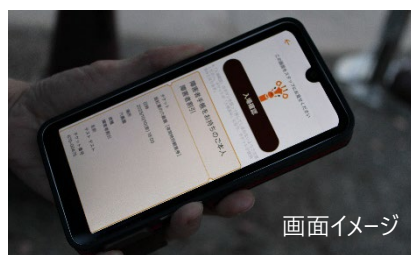
園路からご覧いただく他の演出とは異なり、**光の中に入り込み体験する演出を新たに追加した**。オンライン前売券販売サイトではリピーターの方より「毎年訪れているが、幻想的で癒される」などのコメントもいただき、満足度の高い評価を得られた。



映像の中に入り込みながら楽しむお子様

NEW 9庭園初の障害者割引オンラインチケットの導入

過去ご要望のあった割引価格のチケットを、障害者手帳アプリ「ミライロID」にて販売した。割引での来園者は564人（昨年度比約107%）、うち「ミライロID」利用は66人。**他のオンラインチケットと同様に窓口に並ばずご入場いただけ、利便性を向上した**。



画面イメージ

キャッシュレス決済にも対応することができた

Update 土蔵の形に合わせたプロジェクションマッピング

昨年度までの内容を一新し、**土蔵の特徴的な形に合わせて変化する映像に更新した**。紅葉の美しさを引き立てながら、土蔵の質感を生かした光の演出にすることで、「歴史と現代的演出の融合」と「和のきらびやかな世界」を映し出した。



土蔵ジェクションと紅葉を同時に楽しむ

六義園の築山を象徴する花木「ツツジ」や「サクラ」の景観の保全と活用

NEW 職員による「ツツジの特別ガイド」を初実施

実施にあたり、**数年かけて同定調査を行いツツジの位置図を作成した**。またツツジは**非常に専門性が高いため**、専門家から育成・管理方法のレクチャー、ツツジの性質と歴史などの講義を受け、知識を習得。**終了後アンケートでは全参加者より高評価をいただいた**。



合計57人の方が参加。熱心に解説へ耳を傾けられていた

Update ヤマザクラ補植とモミジ更新による景の回復

ヤマザクラの景を意図する吉野の山から吹上浜へと連なる峰一帯の**植栽を計画的に復元**。史資料に基づく「ヤマザクラ」の補植、衰退する「モミジ」の更新による**計画的な植栽管理継続により作庭意図に近づける景観の回復**をすすめることができた。



周辺域の土壌改良材により生育環境を改善



衰退する築山への補植で景観を回復



「六月六日は六義園の日!？」古材活用による付加価値と庭園の魅力向上の取り組み

NEW 職員選りすぐり！庭園の魅力を発信する写真展

六義園の「六」にちなみ、「六月六日は六義園の日!？」と題して、六義園の魅力を発信するイベントを新規開催。「和歌の庭」についての解説のほか、和歌と共に八十八境と四季折々の写真を展示した。**八十八境のうち16カ所を地図とともに紹介し、実際に足を運んでいただけるよう工夫したことで、お庭の案内にもつなげた。**



「石柱がこんなところにもあるとは知らなかった」
などのお声もいただいた

NEW 六義園のケヤキを使ったオリジナルノベルティ製作

9 庭園初の取り組みとして、古材を活用してスマートフォンスタンドキーホルダーを製作、来園者に配布した。デザインは職員が考案し「六」の柄に松葉、裏面は柳澤吉保の家紋と桜・紅葉をあしらった。最終日の午前中に予定数5,000個が配布終了し、「お土産にもう1つ欲しいので販売してほしい」というお声もいただくほど大変好評であった。



NEW 積極的な情報発信とSNSでのクイズ出題

各種媒体での広報発信により、新聞社から取材を受け、朝刊記事でご紹介いただいた。記事をご覧になった方から**イベントに関するお問い合わせが多数寄せられ、開催前から大きな反響があった。イベント期間中の来園者数は6,935人（昨年度比116%）**となり、六義園を知っていただくとともに**来園促進を図れた。**



X (旧Twitter) のクイズでも、六義園を知っていただくきっかけを創出した

作庭意図に基づく大泉水周辺の景観の回復

NEW 古木名木「吹上松」の方杖支柱の更新

作庭当初からの**古木「吹上松」の大径支柱**を更新。**樹形を象徴する大きく張り出した大枝を保全**。その姿を継承することができた。



施工風景

NEW 大泉水の周囲に並ぶ築山の管理

主景観大泉水を取り巻く築山『藐姑射山』(はこやのやま)の実生木処理、肥大生長した地被笹の刈刈(萌芽更新)により、築山の稜線を明瞭化。**大泉水につながる六義園八十八境築山の景観の回復**を図った。



築山の稜線を明瞭化。その先の大泉水へ視点(視線)が導かれる



重要文化財

旧岩崎邸庭園

新たな発見を通じて、
歴史的建造物を未来につなげる



所在地：台東区、文京区／開園面積：2.07ha

金唐紙にまつわる文化を継承していく取り組み

NEW 金唐紙特別展示会を開催

金唐革紙の製作技術を復元した上田尚氏の逝去の報を受けて、氏を偲ぶとともに、故人を中心とした金唐紙研究所作成、所蔵の金唐紙作品を洋館2階および和館一部に特別展示した。貴重な金唐紙が一堂に会する見応えのある展示会となった。

展示パネルには**外国人向けにQRコードで英語の解説文を読み込める工夫を行う**など、幅広い来園者に金唐紙を知っていただける展示会となった。期間中の来園者数は前年比114%、総来園者数10,201人となり、**多くの方に金唐紙という文化や、その技術の復元について知っていただけた。**



数多くの金唐紙を洋館2階全域に展示多くの来園者に観覧いただいた

Update 「金唐紙ワークショップ」の実施

故・上田尚氏にかわり、孫である江端氏と今後のイベント運営などについて協議を重ね、故・上田氏の作品や歴史についての解説、さらに金唐紙研究所所有の「金唐紙見本帳」を15点展示し、ワニスがかく合間に展示品について解説をするなど、**制作に留まらず金唐紙全体を周知する内容**として例年人気のワークショップを開催した。開催にあたり、過去のワークショップ参加者からの「待ち時間が長い」との声を踏まえて2部制を採用し、待ち時間の短縮を図ったことで不満は一件もなかった。金唐紙の制作工程を体験することで、旧岩崎邸庭園のファンやリピーターの増加、ならびに**文化的工芸である金唐紙の普及にもつながった。**



材質の違い等、制作時の印象的のエピソードを交えながら解説

東京都工事への協力 ～工事と連動した取り組み～

NEW 運用面や工事日程の集積で貢献

東京都による水屋改修ほか工事で、馬車道に工事通路が設置された。**火事等での緊急車両の入場に備え、毎夕や休工日、工事通路の開放を職員が担うなど、運用面で協力を行った。**

また、工事による水屋休業期間に合わせて、和室の約54畳全て表替えを実施。**利用者への影響を最小限に抑えて観賞環境を整えた。**



毎日閉所後、火事など夜間緊急車両入場に備えて職員で工事通路を開放



水屋休業中にお茶席の畳表替えを実施



非公開エリアの特別公開による認知拡大

NEW 「東京建築祭」初参加

拡充開催された上野エリア施設として当園も参加し、**洋館1階の英国製ミントンタイルの近接見学と、通常非公開の撞球室を特別公開**した。主催者広報に加え、当園のX（旧Twitter）で情報発信を行った結果、2日間で延べ3,456人に来園いただいた。「普段非公開の文化財の中に入るといふ、貴重な体験ができた」との声も多く、**建築ファンに旧岩崎邸庭園の魅力をアピールすることができた。**



文化財保護とスムーズな観覧の両立のため入室人数を30人までに設定し安全にも配慮

NEW ミステリーツアーの開催

岩崎久彌の地域貢献の理念やジョサイア・コンドルの建築へのこだわりを題材に、無料・有料の2種類の謎解きを実施した。LINEでの段階的ヒントやアンケート自動集計など新たな仕組みを導入し、**イベント体験の向上と業務効率化を図った。**有料版では**通常非公開の地下通路も活用し**、施設の魅力を効果的に発信した。**満足度は90%超と高評価**で、楽しみながら旧岩崎邸庭園に対する理解を深めていただけた。



ミステリー感を演出した通常非公開の地下通路に謎解きヒントを掲出

NEW 「塔屋の日」の実施

園内工事期間中の利用満足度向上を図るため、**普段非公開の塔屋の特別公開を実施**した。時間を限定した先着順方式で行い、2回の開催で計570人が参加した。また、待機時間を有効活用できるよう、「擬洋風建築物」「洋風建築物」「コンドルと塔屋」など計7枚の**大型パネルを展示し、幕末から明治期の塔屋の特徴を紹介**することで、来園者の建築理解を深める取組となった。



通常見ることのできない塔屋北側窓（不忍池）から景観を楽しんでいた

往時の姿を利用者に伝え、そして後世につなげる維持管理の取り組み

NEW 景観構成軸に配慮したモッコクの剪定

保存活用計画において「本質的価値を構成する書院庭のモッコクは、樹勢状況を適宜確認し、保護に努める」とあり、「適切な質や量となるよう計画的に維持管理を行う」とされていることを受け、和館前庭の主木である大モッコクの剪定を計画した。実施に際しては、小石川後樂園の熟練職員を交えた共同作業とし、和館、芝庭、洋館の視点場からの景観を再確認し、修景を意識した剪定を行った。剪定作業を通し、**熟練職員から当園若手職員への技術の伝承を図り、人材育成につなげることができた。**今回の剪定により、樹下の低木を含め、**和館書院庭の全体的な景観の保護が実現し、利用者に眺望景観を観賞いただけるように改善できた。**



伸びた枝を適正に剪定し美観保持に加え安全を確保して実施

NEW 和館大広間オリジナル壁紙を適切に補修

経年劣化による剥離が進行していた**和館大広間の床の間上の壁紙を補修**した。準備段階から東京都教育庁への報告と助言を受け、施工には、文化財補修に長けた業者を選定。慎重かつ適切な作業により、オリジナルの壁紙を無事に修復することができた。**施工の工程を利用者に見学いただけるよう解説板を設置。**文化財補修という貴重な機会を利用者に見て、知っていただくことができた。



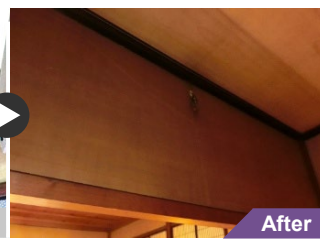
壁紙修復状況東京都立会



作業進行状況の掲示を実施



Before



After

ひびが入って、壁から浮き上がっていた壁紙を修復し、往時の姿を取り戻す



名勝・史跡

向島百花園

200年の歴史と伝統を受け継ぐ
江戸の町人文化が息づく花園



所在地：墨田区／開園面積：1.08ha

地域コミュニティとともに“江戸の町人文化”を守り・学び・伝えていく



「絵行灯」製作の後継者を育成 江戸の町人文化の体験機会を創出

伝統行事「虫さきの会」「月見の会」に欠かせない絵行灯の継承のため、地域の書家・絵師にお声がけし、**初めて当園ゆかりの俳句・短歌を選び作製**。角行灯は「**すみだ北斎美術館**」と地元屏風店に協力をお願いし、**初めて墨田区ゆかりの北斎作品を和紙印刷で仕立てた**。戦後続いてきた絵行灯作製を地域で受け継ぎながら文人の庭園の魅力を伝え、江戸情緒溢れる園内景観を提供した。

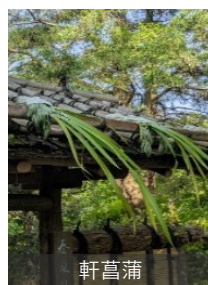


正岡子規が百花園を詠んだ句／葛飾北斎「北斎漫画」を引用



江戸町人の季節感ある風習を 園内植物を利用して毎月展示

時節の風習や江戸の伝統行事を毎月再現。端午の節句には「軒菖蒲」、園内で育てたアサガオで江戸の「朝顔売り」、重陽の節句には『群芳譜』に記された「菊の着綿」等を資料・浮世絵等と展示。また江戸の「風車売り」は解説とともに江戸風鈴や江戸千代紙とフォトスポットに仕立てるなど、**園内コンテンツの創出とともに、関心の高い園内植物の紹介に絡め、江戸文化の学びを提供**。



軒菖蒲



朝顔売りの天秤棒



菊の着綿

フォトスポットの案内看板には英語も併記



初めて地域の学校教育に出張。 施設連携で江戸園芸と庭仕事の普及啓発

「変化アサガオ」の栽培展示を高校でカリキュラム化。初めて庭園職員が出張授業を行い、**育成品種を当園で展示**。展示では初めて当園栽培の変化アサガオで建仁寺垣を装飾する等、江戸風情を演出した。また**職業能力開発センターと初めて連携し、花菖蒲の木札製作や職員による仕事の紹介を交えたツアーを実施**。庭園の仕事伝え地域コミュニティの醸成と江戸園芸の普及啓発に貢献。



都立高校での出張授業の様子／協働で製作した花菖蒲の木札



百花園の植物を活用し、 地元子ども会と初めての庭園体験ツアー

地域の子どもの会庭園体験ツアーを初めて開催。園内案内に加え、「**タラヨウの葉の遊び**」や竹の絵付け体験など多彩な企画を実施。さらに同子ども会と**絵行灯製作体験も初めて実施、伝統行事で展示した**。また墨田区の子どもの向けイベントに参画し、子ども達が庭園を自由研究する機会を提供。魅力を多面的に発信し地域価値向上を図り、庭園や自然を楽しく学ぶ体験で愛着を醸成した。



製作した絵行灯



当園をテーマに製作、当園花ごよみも補助活用



施設更新を推進、利用者の満足度を向上

NEW 安全・快適な利用のための更新を実施

集会施設「御成座敷」の畳替え、障子紙貼替、建具のゆがみ補正、入口カギの補修を実施し、利便性を向上させた。また、経年劣化した四阿の屋根を更新。解体に際して、アスベストの使用状況を調査。対象であったため適切に処理を行い、利用者・作業員、両者の安全を確保した。



畳表替えと障子貼替を同時に実施



四阿屋根のアスベスト含有資材を適切に撤去

伝統技能を受け継ぎ、多彩な展示を実現する栽培方法を検討

Update 上質な献上七草籠のための七草栽培の工夫

東京都の園地工事のための耕作面積縮小に備え、七草籠用のダイコン・カブの栽培方法を検討。苗の栽培密度や土の硬度など多様な植付方法を試行し、昨年度より発芽率を向上させた。工事期間中でも安定した栽培ができる方法を確立。献上七草籠の製作は伝統技能見学会で解説を交え披露。製作過程の動画を作成しサイネージで公開し、利用者で紹介した。



NEW 「古典菊」の栽培方法の検証と実践で、明治期のキクあふれる庭園を再現

伝統的な「挿し芽」の技術で栽培している「古典菊」の育成管理方法を検証しながら見直し、挿し芽の成功率を上げた。苗の数を増やせたことで一昨年の3倍（36種170鉢）の古典菊を育成、特徴を楽しめる姿で開花させることができた。開花株を増やしたことで、一昨年までは1箇所だった展示場所を今年は6カ所に増やすことができ、明治期の水彩画に描かれたキクあふれる庭園を再現することができた。更に、伝統の菊の大作りに挑戦して成功させ、園内の新しい見どころとして、新聞・TV取材にフォーカスされ、イベントの来客増へつなげることができた。古典菊栽培の新たな育成方法はマニュアルとして職員間で共有。当園における栽培技能を継承する体制を整えた。



増えたキクが秋を彩り、魅力が向上



← 明治期の水彩画

昨年一番人気の品種で大作りに成功

庭園情報の案内機能、広報活動の強化

NEW 地理情報システム（QGIS）の活用

週1・2回実施してきた開花調査のデータと写真を地理情報システム(QGIS)に登録。管理情報の量・質・更新頻度が向上し樹木管理の効率化が図れた。またQGISを活用し入口デジタルサイネージで草花の見頃情報を提供。姿と位置が分かりやすくなり来園者の利便性を向上させた。



Update 周辺地域への広報・情報提供の充実

伝統行事の案内時期を二段階に分けチラシを制作。周知期間を長く、地元商店にも協力を仰いだ。問合せの多いハギの見頃情報を園内外に掲出、開花地区マップも都度更新し「萩まつり」22日間でSNSを18件発信。ハギの見頃以外の楽しみとして園内のススキで職員が製作した「フクロウ」を樹木の影に隠し、来園者が探索する遊びも提供した。





都指定名勝

清澄庭園

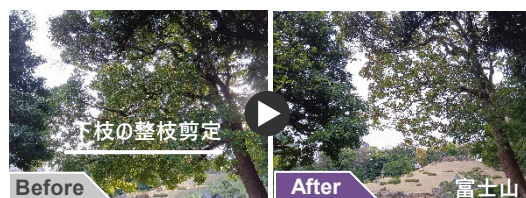
清澄白河の癒し空間
地域に寄添う安心安全の庭



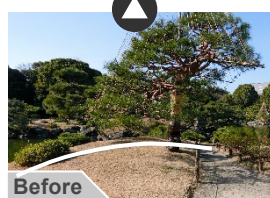
所在地：江東区／開園面積：8.10ha

園内状況の把握と来園者の期待に応じたきめ細やかな維持管理の遂行

NEW 都景観復旧に連動した「大泉水護岸・富士山」修景



回遊園路からの富士山を臨む視点場では、クスノキ大径木の下枝を整枝剪定し、富士山への眺望を改善。



芝生地の切下げにより大泉水へ広がりのある景観を回復。

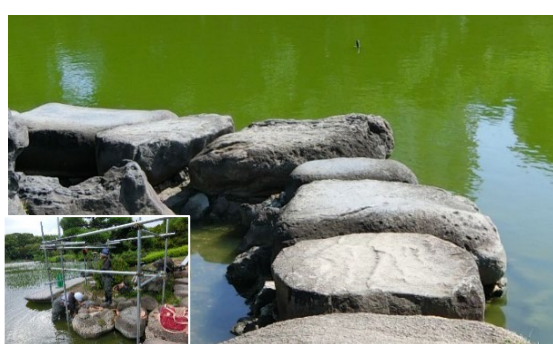
都から受託の「大泉水護岸補修」、「富士山景観復旧」に連動した大泉水景観の修景を令和3年度より継続して実施。今年度芝生地切り下げ箇所については、事前に根回しを実施したアカマツも併せて切り下げた。都受託工事周辺の仕上げ工事により、大泉水を回遊する**各所視点場からの当園の本質的価値の回復**をすることができた。

Update 大泉水護岸の景観保護改善に向けた取り組み

大泉水護岸で当園の景観を特徴づけている、マツ古木の方杖支柱を更新し大泉水周囲で傾斜している**古木を保全**。熟練職員の技能伝承を未来につなぐことができた。また、**傾きが生じた飛石の不陸を修正**。安全性と景観の向上を回復させ、清澄庭園の特徴のひとつである磯渡りの**快適な歩行と景観を提供することができた**。



大泉水護岸周辺傾斜地における頼杖支柱設置技能を伝承



難しい作業を人力による補修で実施

傾いた磯渡りの飛石を水平に据え直し、歩行の安全と景観を回復

Update 芝地・苔地・サクラの維持管理

芝生地内のカヤ防除により、観賞環境の維持に努めた。**苔地の除草ときめ細かな落葉清掃**で苔を美しく見せる景観を維持。**自由広場のサクラ**には**打ち込み肥料**を施すなど、**サクラ樹勢改善**を実施した。



美しい苔地景観を維持することで、モミジの時期に美しいコントラストを演出できた。



歴史を振り返り、防災知識のアップデートを図る取り組みー地域社会とともにー

Update 防災企画展「震災と空襲の記録」

情報発信力強化のため近隣教育機関と連携して、期間中に講演会を実施。東京大空襲前日の空襲から、同校教員が書き記した執務日誌を中心に、「清澄庭園に逃げろ」と駆け寄る生徒に温厚な先生が怒鳴った、戦後の苦しいときでもみんなで清澄庭園を歩いたエピソードなど貴重な戦争体験を伝えることができた。



戦災を追体験する雰囲気涙する方もあった

Update 高齢者に寄添った防災訓練の実施

例年訓練を実施している近隣幼稚園との訓練に加え、新たに近隣の地域包括支援センターとの合同防災訓練を実施。高齢の利用者に地震車や初期消火訓練を体験していただいた。訓練を通して、当園の防災への取組を知っていただくこともでき、多様なコミュニティとの地域ネットワーク構築を推進した。



水消火器による初期消火訓練を体験する参加者

博物館や教育機関と連携したイベント開催

Update 幅広い層の方々が集まるイベント

- 江戸東京博物館学芸員によるテーマを掘り下げた専門性が、歴史文化の普及、地域価値の向上、生涯学習の機会になった。
- 近隣の学校書道部による書道体験は、書道が久しぶりの大人、筆を持つのが初めてのこどもやインバウンド観光客にも喜ばれた。作品はお持ち帰りいただくことで一層のおもてなしにつながった。



えどはくカルチャー（6月・12月）
「深川の水と清澄庭園」・「庭園の植物物語」

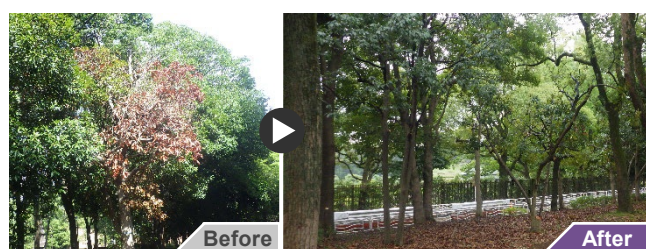


書道体験

遊びや癒し、健康増進、防災など様々なニーズに対応する開放公園の空間づくり

Update 樹木の健全化による魅力アップ

肥大化、過密化した樹木を健全化。見通しや照度の確保、通行支障、倒木・落枝の発生を抑制。北東側入口からトイレ棟のある入口までの植込地の常緑樹について重点実施。様々な生育の公園内の樹木の健全な育成を図るとともに、遮蔽や機能維持、安全向上を図った。



隣合う樹木の枝葉で互いに被圧しないように剪定して適切な密度に。

Update 安全・快適・継続性に配慮した園地整備

縁台下の土系舗装、不等沈下や土砂堆積による人孔の埋没や突起の改善、流れへの土砂流出口になってしまっていた階段の補修など、土系園地の安全性、快適性とその低コスト管理を推進。



縁台下の舗装



人孔の嵩上げ



名勝

旧古河庭園

和と洋の調和を未来へ繋ぐ
地道な維持管理で名勝庭園を継承



所在地：北区／開園面積：3.07ha

蘇った洋館の外壁を引き立てる、咲き誇るバラや音楽会を堪能

Update データ剪定で見ごろ延長、来園増

一株毎に記録した剪定～開花～終花のデータを参考にバラの見ごろが長く続くよう剪定日を決定。秋バラは、約105種中75種が咲いている見ごろを48日間維持し、秋バラ～紅葉の2カ月に及ぶイベント中の来園者数は76,161人（前年比116%）と大きく伸びた。



1株毎に開花時期を予想して剪定し、バラ園全体の見ごろを伸ばす

NEW SNS映えの撮影スポット設置で魅力向上

美しくなった洋館を実感できるようにバラ園の一角に洋風の白いテーブルとチェアを設置。来園記念を演出するため、オリジナルの持ちちプレートも作成。日本語版・英語版を用意して、外国人客にも対応した。来園者によるインスタグラム投稿もあり、PRにも資した。



洋館とバラを背景に記念撮影



オリジナル持ちちプレートも用意

Update 大谷美術館連携で雨天も音楽会を実施

毎年芝庭にステージを設置して屋外で行っている演奏会。秋は高確率の雨予報であったため、大谷美術館の協力のもと初めて洋館2階で演奏を行い、バラ園を散策しながら聴いていただく形で実施した。傘を差しながらも2公演で約200人が楽しめた。



芝庭で開催した春バラの音楽祭



洋館内で演奏した秋バラの音楽会

Update 多客期前に園内設備を整備し快適にお迎え

秋バラの季節の前に、経年のため劣化が目立っていた園内各所にある解説看板と芝庭周辺ベンチの塗装等補修を実施。来園者が気持ちよく庭園散策を楽しみ、くつろいでいただける環境を提供し、観賞環境の向上を図った。



ベンチは再塗装、部材交換、解説版は研磨して再塗装し、観賞環境を向上

昨年の多くの利用者からの声に応え、バラの苗鉢を販売して大盛況！

NEW 戦略的出店調整でニーズ対応と来園促進W効果

昨年度、バラの苗鉢販売を望む声が多かったので、早い段階から業者を探して初出店を交渉。出店中は多くの来園者で賑わった。GWと5月中旬の春バラの最盛期に加え、あえて人出の落ち着く6月にも出店調整し来園者増を図った結果、6月の月間来園者数を前年比118%とできた。



バラの苗鉢に足を止める利用者



Xにポストして来園促進



国指定名勝20周年を機に、維持管理の歴史やバラ管理について紹介

NEW 和洋が調和した庭園の 管理をパネルで紹介

名勝指定20周年を迎えた旧古河庭園。和洋の見事な調和を実現した大正期の貴重なこの庭園の**これまでの維持管理の歴史とバラの管理についてパネルで紹介**。多くの来園者が特設テントの中の**パネルを熱心に見入っていた**。



正門近くにテントを張ってパネルを設置

NEW 2年にわたる旧古河邸の 外壁修理工事を振り返る

当時の工事関係者を招き、①洋館ガイドツアー(約60分) ②講演(約60分) ③洋館外壁とモックアップ見学(約30分)の**三部構成で「蘇った旧古河邸の外壁」を紹介**。参加者は、**ここでしか聞けない設計や施工でのトピックス**に聞き入っていた。



洋館の外壁と工事用モックアップを前に解説

NEW バラを綺麗に咲かせる 伝統の技をバラ園で実演

当園の技能職員がバラの剪定方法や肥料のやり方についてバラ園で実演しながら解説。**事前申込不要・参加費無料**として気軽に参加できるようにしたが、**20人以上の熱心な参加者が集結**。参加者の**興味に応えながらの進行が大変好評**だった。

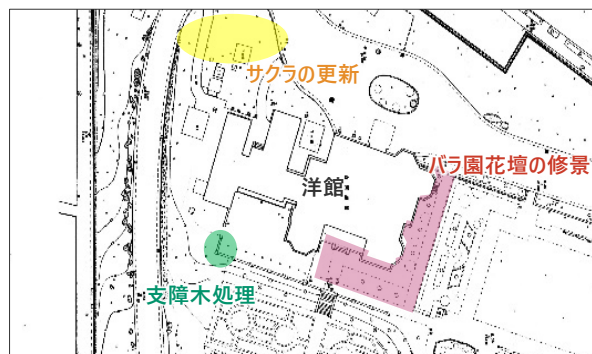


熱心に剪定作業を見学する参加者たち

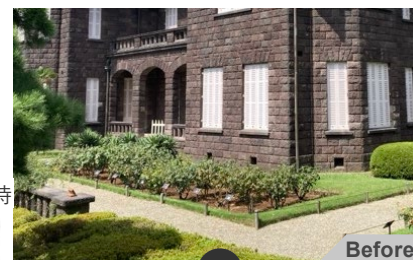
東京都により洋館外壁修理と連動した洋風庭園の一帯的な景観の回復

Update 史資料に基づいたバラ園花壇の修景

古写真を基に経年により肥大化したバラ園花壇芝地切下げを行い、洋風庭園の**本質的価値である平面性を回復**。往時の景観を彷彿とさせる庭園景観とすることができた。



大正9(1920)年当時



Before



切下げを実施

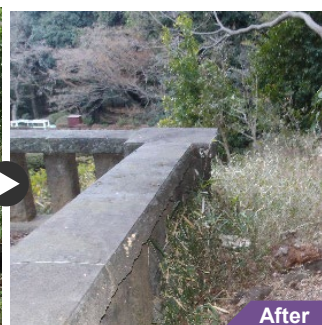
After

Update 支障木伐採による遺構の保存

樹木が肥大化により、創建時からの遺構であるバラ園テラスの欄干に接触。文化財関係者と協議を重ね、**伐採を文化庁に申請**。貴重な**遺構を保全**することができた。



Before



After

Update サクラの景観回復に向けた計画的な取組

洋館入口付近のサクラの樹勢が衰退傾向にあるため、R6年度から**サクラの更新と周辺土壌の改良を実施**。**環境の急激な変化による悪影響を考慮し、計画的に景観の保全を進めることができた**。



補植箇所周囲で広範囲に土壌改良を実施



名勝

殿ヶ谷戸庭園

崖線『美』を活かした庭づくり
別荘庭園の往時の趣を『今』に伝える

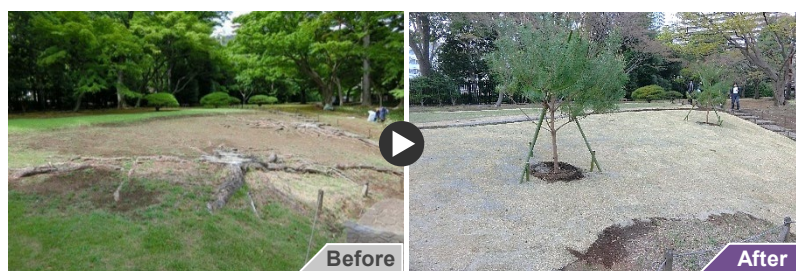


所在地：国分寺市／開園面積：2.11ha

殿ヶ谷戸庭園の本質的景観を保全するための維持管理作業

NEW 芝生地景観回復の取組

昨年度、枯損してしまったアカマツの根株を撤去し、後継樹の補植を行った。補植では庭園有識者の助言による幼木を選び、今後当地に馴染む樹姿に育成を図っていく。また、これまでアカマツの樹陰となり、育たなかったシバも補植。アカマツが育つまでの短中期的な景観維持を行うことができた。



アカマツの補植と芝生地再生により、短期及び中長期的な景観の回復を行う準備ができた

Update 計画的なモッコクの手入れで本来景観の維持を実現

殿ヶ谷戸庭園では、毎年エリアを決めて、主要景観木モッコクの手入れを行っている。手入では、モッコク本来の樹姿を活かしつつ、遮蔽効果などの景観演出を楽しんでいただけるように意識して行っている。保存活用計画にも明示されたモッコクのある景観を後世に残すために、今年度は馬車道から主屋周辺の手入れを実施。美しい樹姿のモッコクが並ぶ、本質的な景観を利用者に提供することができている。

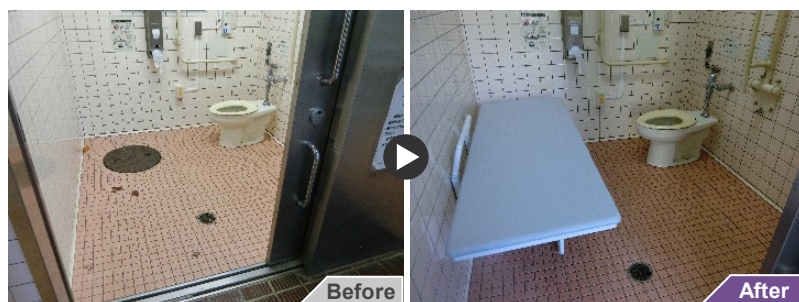


売札所周辺車回しのモッコク手入では、園内景観への期待を高めるアプローチとなるよう意識

開放公園内車椅子使用者用トイレに介助用ベッドを設置

Update 「心のバリアフリー」を踏まえた施設改善

東京都が推進する「心のバリアフリー」事業に対応していくため、開放公園内車椅子使用者用トイレに介助用ベッドを設置した。設置に際しては、壁付立ち上げ型を採用し、車椅子の移動軌跡などを踏まえて、設置場所を選定したことで利用者の利便性を高めることができた。



介助用ベッド設置スペースを調査し確保

車椅子動線に影響しない場所に設置した



利用者のニーズに対応し、庭園の魅力を発信

NEW 過去のイベント時に積極的に実施したアンケート結果をもとに 利用者のニーズを反映した初めての演奏会開催

アンケート調査により把握した利用者のニーズをイベント企画に活かし、「演奏会」を10月に初開催。天気予報を勘案して、雨天の場合でも、屋内席および外の立見スペースで鑑賞いただけるよう安全面に配慮した準備を整えた。本来は芝庭の一部を開放し開催予定だったが、当日は雨天のため会場を展示室として開催した。会場への整理券を求めて開園より並び利用者もあり、整理券の配布終了後は展示室外に準備した立ち見スペースでの鑑賞をご案内して参加要望に最大限対応し、多くの方にお楽しみいただいた。



フルート・ヴァイオリン・ピアノの美しい音色が響く



立ち見鑑賞スペースに集まり聞き入る利用者

Update 紅葉期と合わせたチラシで 広報展開し来園者増

長期的な情報を掲載したチラシを1万部作成、新規の配架先として周辺ホテルや国営公園などを開拓し広報展開した。演奏会の開催告知と合わせて紅葉期イベントをPRしたことで、11月の来園者数は19,986人(前年比160%)と大幅増につながった。



秋のイベントチラシ(抜粋)

「国分寺崖線ツアー」回数増と新たな協働先参加で地域との連携をさらに強化

Update 地域の魅力を活かした散策ツアー

- 毎回好評の「庭園と国分寺崖線沿いの遊水地や遺跡をめぐる散策ツアー」を、要望に応え今年度は11月に実施日を一日増やし、平日と土曜にそれぞれ開催した。
- 今回は、武蔵国分寺跡資料館に加えてJA東京むさしと協働し、かつての武蔵野らしい農村の風景を参加者に想起していただくため「こくベジ野菜」の大根をお土産として提供し好評を頂いた。



資料館でのガイドで往時を知る



地場野菜の大根のお土産

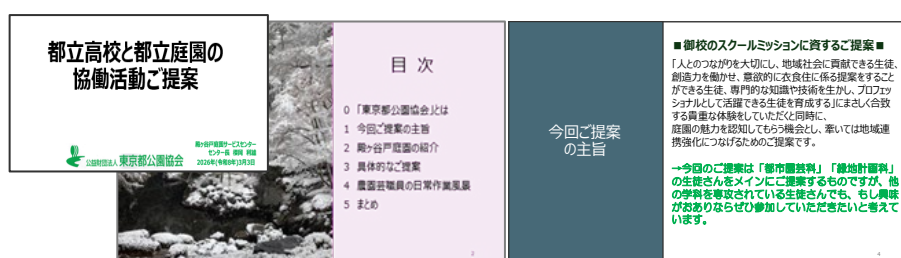
イベント活用やボランティア活動の働きかけで地域連携強化

NEW 庭園の魅力や仕事をアピールし、イベント活用やボランティア活動の新規参入を図る

- 近隣の心療内科施設とは2016年3月以来、当庭園の作業ボランティア活動に協力していただき、診療方針の一助ともなっている相互関係である。さらに今年度は新たなボランティア活動の団体を誘致を目的として、周辺の企業や教育機関へ働きかけを行った。
- 紅葉亭を活用した茶道のイベントの打合せを大学の地域連携センターと行い、来年度以降のイベントにつなげることができた。また若年層へのアプローチとして都立高校に対し、殿ヶ谷戸庭園の歴史や農園芸職員の日常業務を紹介するプレゼンテーションを実施した。校外学習や生徒会を通したボランティア募集などを提案し、来年度以降の校外学習の受け入れに繋がった。



近隣の心療内科施設によるボランティア活動



ボランティア誘致を図る提案書